

平成28年度 大阪府立箕面東高等学校 第2回学校協議会 報告

【日時】：平成28年11月30日（木）15時30分～16時45分

【場所】：校長室

【出席者】協議会委員：伊藤 義輝（大阪成蹊大学）、小山 正辰（元府立高校校長、現森ノ宮医療大学）、里村 潔（箕面第6中学校校長）

須貝 昭子（NPO法人「市民活動フォーラムみのお」）、

三島 義博（本校PTA会長）、篠崎 朗（本校同窓会長）

校長：國守 正二（校長）

学校事務局：貴治 康夫（教頭）、川上 慶次郎（首席）、森本 光展（教育相談）

池田 一伸（卒業年次主任）、藤田 晋太郎（2年次主任）、

佐藤 隆夫（1年次主任）、呉田 雄帆（保健体育科・書記）

【授業見学】

「フードデザイン」（東保育所とのコラボ（おにぎり作り～食べる））

「産業社会と人間」、「ステップアップ社会」、「ステップアップ理科」

（協議会委員の感想）

授業見学では、生徒の笑顔が良かった。細かく配慮され、生徒の興味をひき、実態に見合った内容を実施している（「産業社会と人間」など）。

【説明・報告事項】

1. 各年次の状況

1年次（佐藤）

学年集会を開き、時間厳守・授業規律について継続的に指導している。

2年次（藤田）

進路決定を早期に行い、それに向けて放課後学習や目標ある科目選択を行わせるなどのES（エンパワメントスクール）1期の進路指導体制は今後、次の学年につなげていきたい。

SJ（スーパージャンプ）コースで大学進学に向けて頑張りながら不登校を克服しつつある生徒の事例を大阪府人権教育研究協議会にて発表予定。

修学旅行は今年度（ES1期）から2年次で実施。12月に沖縄県石垣島へ（自然と文化にふれ、人生観を変えさせたい）。基本的には全員参加を促しているが、不参加生徒に対する指導もしっかりと行っていきたい。

卒業年次（池田）

学外連携講座や資格認定等を活用して単位認定を行ない、一人でも多くの生徒が卒業できるよう指導している。現段階で進路確定している生徒のなかには推薦ではなく学力テストで大学合格する例も出てきている。

〈質疑応答〉

- ・進路指導に関して CS（クリエイティブスクール）と ES で変わるところはあるのか？
→ CS よりも ES では早くから進路指導（社会見学や自力受験用の学習指導（SJ コース））等を実施。ES のカリキュラムを補うため、放課後等も指導時間を割いている。

2. 教育相談体制について（森本）

不登校（文科省の定義は年間 30 日以上欠席）は、後期になるほど多くなる傾向があるが H26 年度以降は減少傾向にあり、H27 年・28 年度共に 1 年次の不登校数は減っている（ES の効果か）。不登校支援者の為の進路相談会を実施したり、箕面の適応指導教室に出向いて情報交換している。本校の生徒支援委員会は、不登校以外にも障がい、虐待生徒、貧困家庭に対応できるように、他機関との連携を実施。入学時の自己申告や保護者からの依頼があった者について個別の支援教育計画を作成している。重度の障がい生徒に対しては『支援検討チーム』を発足している。これまでスクールカウンセラーは 20 回来校。今年度から派遣のスクールソーシャルワーカー（虐待対応等の専門家）の来校回数は増やしたい。教員対象の教育相談研修はこれまで 2 回実施。3 回目は（わかりやすい授業の組み立て）を予定。

〈質疑応答〉

- ・個別の支援計画対象は療育手帳の取得者か？
→ 手帳を取得しているか、中学時に個別の支援計画の対象者であったかどうか。
先生方にお願ひし、該当者のていねいな情報収集を行う。支援委員会としては、担任が一人で抱え込まないよう留意している。
- ・相談室の相談内容は学年で変わってきているのか？ ES に変わってからはどうか。
→ 内容の変化は特にない。CS に比べると ES の生徒は空き時間がないため、来室しにくい。
- ・めいぶるカフェは今後も続けていくのか？
→ スタッフの常駐状況、派遣の頻度が減っているが、有償ボランティアを活用して続けていく。

3. トイレ改修について（川上）

新聞資料に基づいて説明。来年 2 月の府議会で予算が通れば施工。1 系統のみ工事を行い、費用は 1 校あたり 5000 万円。床を乾式にして洋式便器も設置。今後、情報提供していく。

【協議事項】

(1) 学校経営計画の取り組み進捗状況（國守）

- ・前回にお話しさせていただいた計画についての進捗状況についてご意見をお伺いしたい。

〈質疑応答〉

- ・モジュール授業は慣れてくると、生徒にとって30分は短いのでは？
→ モジュールは1年次のみで2年次以降は実施していない。モジュール授業では、国語は効果が表れてきている。毎日30分行うことに意味がある。30分授業の後に50分授業（3限目）を行うと、生徒のなかには長く感じてしまい、集中力が続かない場合がある。今後の検討課題である。また、生徒の興味・関心に基づいた選択科目が増える2年次では50分授業でも問題はない。
- ・「フードデザイン」でのおにぎりを作る授業を見学して思ったが、今後、箕面で作られたお米や野菜を使うなど工夫すれば、地域とのつながりとして授業内容も発展するのではないかと？
- ・5、6限の座学授業での生徒のモチベーション維持は難しい。身体を動かすような内容を工夫してはどうか？
→ 貴重なご意見をいただきありがとうございます。ぜひ今後の授業改善で検討していく。
- ・SNSが世の中を占め、ネット情報も多様化する時代で、「産業社会と人間」のように相手の立場になって理解を深めたり、コミュニケーション能力を上げる授業が様々な問題を解決するうえで役立つのではないかと。多様化する社会の中で子どもたちはどう生きればいいのかを教えることが、間接的ではあるが生徒の学習意欲につながらないかと。また、生徒を褒めることは大事ではないかと。
→ 自己有用感を高めるような言葉を教員が選び、授業で工夫している。
- ・前回より今回の方が、授業の雰囲気良かったように思う。

(2) 授業アンケートについて（國守）

授業アンケートでは振り返りシートを作成し、授業見学後に先生方と（授業改善、質の向上に向けて）面談を行っている。学校の教育活動で授業はもっとも大切。授業のレベルを上げることは重要である。

〈質疑応答〉

- 現在、大学でも授業アンケートは必須である。アンケートは専任、非常勤を問わず実施している。高校でもぜひ、全教員対象にアンケート実施してください。
- 貴重なご意見をいただきありがとうございます。学校・授業改善につなげたい。